

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前と比較すると、来街者数が目に見えて増加している。3月下旬及び4月初旬は、商店街を訪れる来客数は少なかったが、4月中旬以降、来客数は増加しており、商店街にある百貨店では、これまで不振であった衣料品等の販売量が増加している。		
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・4月に入ってから、景気に幾分明るさが出てきている。得意先の新規オープンの話も何件かみられており、雰囲気的に先が明るくなりつつある。		
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・4月の売上が前年比105%前後で推移している。		
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・単品買いの傾向が継続しているなか、少しずつまとめ買いやコーディネートで購入するケースがみられるようになってきた。		
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・今年に入ってから、毎月、来客数が前年を上回る傾向にある。		
		百貨店（役員）	来客数の動き	・人の動きが良くなっている。		
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今月は創業祭のイベントがあったため、集客の増加により、販売量が前年比106.8%と増加している。		
		スーパー（店長）	お客様の様子	・今までは価格の安さのみにこだわる客が多かったが、最近はバーゲンなどの安い商品に買物が集中する一方で、商品の質、ブランド、国産などにこだわった価値感のある商品も売れてきている。		
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・以前と比べてまとめ買いをする客がやや増えており、大容量品も売れ出している。		
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年の道東は風の強い日が多く、特に中旬以降は寒い日が続いたため、客足が鈍ったものの、月全体での来客数は前年並みとなった。		
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・4月後半からゴールデンウィークにかけての予約が前年以上に伸びている。		
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売量がやや伸びてきている。他業種は分からないが、旅行業については若干景気が良くなっている。		
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数は大分回復してきているものの、客の低価格志向や節約志向は変わらず、少しずつ回復してきているという状況にある。		
		タクシー運転手	来客数の動き	・4月は例年より寒く、雨や雪の日もあったため、タクシーの売上は前年を少し上回った。ここ最近では毎月、前年比マイナスの状況が続いていたが、3年ぶりに前年比プラスとなった。		
		タクシー運転手	販売量の動き	・例年4月は売上が伸びないため、3か月前に比べると売上が約15%減少しているが、前年との比較では、減少幅は約3%小さく、売上自体も約5%の伸びとなっていることから、景気は上向きにある。		
		観光名所（役員）	来客数の動き	・引き続き国内からの観光入込は今一つだが、台湾・韓国等の東アジアからの観光入込はますますであり、低水準ではあるが、全体の観光入込が前年を上回る月が続くようになってきた。		
		美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数が前年並みに推移しており、売上もわずかではあるが前年を上回った。		
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・例年、4月のマンション販売戸数は1月よりも落ち込むことが多いが、今年は反対に売上が伸びた。来訪客も大きな減少はみられなかった。		
		変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・客の買い控え傾向はほとんど変わっていない。
				商店街（代表者）	お客様の様子	・客の慎重な買い方は依然として変わらないが、特売については少し反応が出てきている。一方、季節商材については、天候不順の影響が大きく、まだまだの感がある。

商店街（代表者）	単価の動き	・例年、4月の春商戦では、春物の定価品への需要が出てくるが、今年は気温の変動が激しいため、今一つ春物への購買意欲がわからないようである。結局、客は買い得品に流れてしまうため、客単価が低下している。
商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は以前と変わらず、変化がみられない。
百貨店（売場主任）	単価の動き	・4月の商品動向をみると、衣料品の動きが相変わらず厳しい状況にある。4月に入っても寒さが続いていることから、春物のコートやジャケットに動きはみられるものの、夏物商材の半そでにまだ動きがみられない。
スーパー（店長）	単価の動き	・4月初めの新入学シーズンのピーク時の動向をみると、客単価が前年を下回っている状況にある。また、4月の気温が低いことも追い打ちをかけている。4月後半になり、多少は上向いたが、月全体としてみると、景気は変わらなかった。
スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品単価の低下に歯止めがかからない。
スーパー（役員）	単価の動き	・商品単価が前年比97.5%、客1人当たりの買上点数が前年比106.3%となっており、客単価は前年比103.7%となっている。既存店全体での売上は前年比103.4%となっており、ここ数か月変わらず推移している。
スーパー（役員）	販売量の動き	・低温の影響や、前年のプレミアム付き商品券の反動で、4月は売上の厳しい状況が続いている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費の冷え込みは継続している。天候も悪かったことから、観光客や農家の動きも鈍い。また、前年の定額給付金給付の反動もあり、売上は鈍化している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・環境対応車への補助金の効果が一段落した感があり、受注台数も低調に推移している。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・依然として厳しい状況が続いている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・例年と比較して、今年はゴールデンウィーク前の状況が特に悪い。平日の地元客、週末の観光客とも入込が少なく、売上は前年からは10%の減少となっている。
観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・本州団体ツアー客及びインターネット個人客ともに、引き続き客単価が低下している。
観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊料金の動きをみると、観光客は価格訴求商品にリクエストが集中しており、販売量を確保できても、売上の落ち込みをカバーするまでには至っていない。前年からの傾向に変化はなく、回復基調とまでは感じられない。
タクシー運転手	販売量の動き	・雪解けとともに利用者が激減しており、いまだに景気の底が見えない状態が続いている。
タクシー運転手	来客数の動き	・電話注文数が減少している。来客数も減少している。客単価も低下傾向にある。
通信会社（社員）	お客様の様子	・新年度・新生活という転換期ではあるが、ここ数か月と比較して、客の消費行動が活発になったとは感じない。客は支出の増加には相変わらず慎重であり、改善の兆しも特に感じない。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・先月と同水準の売上を記録している。競合他社も同様の状況である。
観光名所（職員）	来客数の動き	・低温、悪天候等の影響により、利用客が減少している。また、海外客の利用は微増であったが、国内客の利用が大きく減少している。
パチンコ店（役員）	競争相手の様子	・他社の様子を見ても、客を獲得するためにずい分と苦労している。余暇に対する消費が確実に減少しているなかで、余暇時間の過ごし方として当業界の順位が下がっていることが顕著に感じられる。
その他レジャー施設（職員）	販売量の動き	・このところ団体利用で1人当たり1万円程度かかる商品について、人数が集まらないので利用できないと断られるケースが増えている。引き合い自体も例年と比較して少ない。
美容室（経営者）	お客様の様子	・天候不順のため、灯油を例年よりも多く使用するうえ、ガソリンの値上げなどもあり、出費を控える傾向がみられる。

	設計事務所（所長）	お客様の様子	・春になり、問い合わせ件数は若干増加しているものの、相変わらず客の動きは鈍い。	
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・住宅業界の受注状況に変化はみられない。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・先月は客の購買意欲が増してきている様子がうかがえたが、今月は天候不順の影響なのか、来客数が落ち込んでおり、売上も前年よりも減少している。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が減少している。	
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年は定額給付金の効果もあり、客の買上単価が上昇していたが、今年は反動で1%程度低下している。また低温が続いたことから、農家の需要も低調であり、特に飲料水の販売量が減少している。	
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・今年は4月の天候が例年よりも悪かったため、客足が非常に鈍く、売上も減少している。	
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・前年よりも状況は良いものの、3月のエコポイント対象商品の変更前の駆け込み需要の反動が大きく、数字的にはやや物足りない状況となっている。	
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・3月までの旧エコポイント制度の下での駆け込み需要の反動で、薄型テレビの売上が激減している。	
	その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・自動車用燃料の販売量の減少、タイヤ等の高額商品の買い控えがみられる。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・毎年4～5月は売上が減少するが、今年は例年に比べて、やや悪くなっている。今年はゴールデンウィークが長めで、節約疲れの反動なのか、遠出する客も多いようで、期間中の予約も少ない。先月まで堅調だった中国人観光客は鳴りを潜め、ランチは天候不順の影響もあって前年実績に達しなかった。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行については、取扱人員が前年比117%となったものの、販売額は前年比91%にとどまっている。海外旅行については、取扱人員が前年比60%、販売額が前年比50%となっている。国内旅行、海外旅行ともに販売額の低廉が目立っている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4月の販売額は、国内旅行が前年比94%、海外旅行が前年比67%となっており、前年割れの状況が続いている。	
悪くなっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・4月になってから、来客数が大きく減少している。前年比では3割程度の減少となっており、景気はあまり良くない。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・個人消費及び法人需要ともに活性化してきた。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・少しずつ客の方から仕事が入るようになってきた。
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・住宅着工件数が増えていることもあり、前年比で見ると、受注金額及び出荷台数ともに微増ではあるが増えている。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新年度予算による公共建築工事の発注はまだ少ないが、民間の建築工事の見積の引き合いが増えている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量が増加している。更にこのところ引き合い件数も増加してきており、景況感の回復を少しは感じるようになってきた。
		司法書士	取引先の様子	・雪が解けて気分的にも開放感が感じられるなか、若干ではあるが取引の引き合い件数が増えてきている。しかしながら、新築住宅よりも中古住宅、中古マンションなど値ごろ感のある物件の動きが多く、本格的な景気回復の感じはない。
変わらない	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・天候不順の影響で農水産物の価格が高騰しており、低価格商品へのシフトが進んでいる。消費意欲の後退により、高級し好品の受注減少がみられる。	
	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前に比べて、受注量や販売量は増えているが、これは例年のことである。前年と比較すると、販売量は約1割の減少となっており、厳しい状況が続いている。	

	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・飲料業・製紙業・飼料業に大きな変化はみられない。一方、生乳については、例年、春休みの影響で給食用牛乳の出荷が少ないため、生産過剰となるが、道内乳業メーカーの処理能力アップにより円滑に推移している。また、ゴールデンウィークを控え、清涼飲料の出荷量が増加している。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・自動車・家電販売業界は堅調に推移している。土木建設業も比較的堅調に推移していたが、徐々に経済対策効果が薄れ、手持ち工事が少なくなっている。住宅着工は低水準ながらも、マンションの在庫調整が進み、持ち直している。雇用・所得環境は依然として厳しいため、スーパーなどでは安売り競争に陥っている。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産売買等は低調である。建物の建築も、年度替わりという点を考慮しても、停滞している。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・燃料価格の上昇により、運送業、建設業、農業等からの不満の声が上がっている。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・建築関連の仕事量が少ない影響をまともに受けており、上昇の兆しが感じられない。	
	やや悪くなっている	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今月の受注額を前年比でみると、3か月前よりも減少している。
	悪くなっている	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月以降、同業他社も含めた業界全体の仕事量が急激に減っている。
雇用関連	良くなっている			
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・行政官庁から求人開拓の事業を受託しているが、3か月前に比べて、パート・アルバイトなどの求人は増加傾向にある。中途採用についても、求めるスキルの質は依然と高いが、求人はやや増えている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・製造業も含めた派遣業からの求人依頼が若干だが増加している。ただ、飲食・小売業の求人数は年明けから大きな変化はみられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年に比べて、求人数が22%ほど増加している。特に、福祉・介護事業と清掃・ビルメンテナンス・警備関連事業など、事業者向けサービス業の一部が大きく増加している。また、コールセンターや派遣、道内外の業務請負など受託系の事業も、ここ数か月と同様に前年比で増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・1月よりは2月、2月よりは3月とわずかずつではあるが、新規求人数が増加している。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年を8.0%上回り、2か月連続で前年を上回った。月間有効求人数は前年を6.6%上回り、2か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月の管内における月間有効求人倍率は0.36倍となっており、前月と変わらなかった。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・新規求人数は前年を1.0%上回り、新規求職者は前年を10.3%を下回り、月間有効求人倍率は0.41倍となり、前年を0.04ポイント上回ったが、新規求人数のうち、パート求人数の増加が目立っており、正社員の求人の動きが非常に不安定である。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・本学における求人数は、前年が前年比で約30%の減少であったが、今年も現時点では前年比で約15%の減少となっており、増加を望むのは困難な状況にある。とりわけ、道内企業については、採用数を若干名とする求人票も多くみられ、1人の場合を始めとして採用数があまり多くないという実態がうかがえ、企業の厳選採用を顕著に示している。
		やや悪くなっている		
	悪くなっている	-	-	